

新屋に伝わる

鹿嶋祭りの由来について

かしまさんは子供のおまつり

鹿嶋まつり保存会 調査研究部

# 「新屋鹿嶋祭保存会」 設立の趣意

- 新屋の鹿嶋まつりは、350年以上も続く「子供たちの健やかな成長と町民の息災安全を祈る」全町民が挙げて参加する郷土の一大祭典である。
- これほど賑やかで、見応えのある郷土の誇るべき伝統行事が、公的機関より未だに民族・芸能文化財的な価値を認めてもらえないのはなぜか？
- これは祭事の執行が各町内会ごとの持ち回りの当番制で行われて、鹿嶋船の飾り付けやお囃子・巡航順路等がまちまちで、統一見解性に欠ける点にあると言われている。
- 加えて、この行事の歴史背景や意味合いを検証し、継続的に伝え得る場(方法)がなかったからである。

# 子どものお祓い行事



**上巳の節句** 3月3日 ひな祭り 女の子が優しく美しく成長することを願う祭事。古くは、奈良時代の宮廷女官行事の「曲水の宴」が起源と云われ、後年になって穢れ・災いを人形（ひとがた）に移し、川に流して祓おうとする風習が伝わったもの。その後、往時の宮廷女官の人形を飾るなどして女兒の雛飾り・雛遊びとして現在に伝わっている。

**端午の節句** 5月5日 家々では、厄よけの菖蒲を飾り、蓬などの薬草を食べたりして、無病息災を願い家族全員が無事に過ごすことができるように神前にお祈りした。その後、子どもが元気な強い子に育つことを願って鯉のぼりを揚げ、鎧・兜を飾って、子どもの日を制定し男の子のための行事として定着したもの。



二つの行事とも子供たちの無病息災を願うための行事で、それぞれの家風のしきたりで行われている家庭内行事。鹿嶋さんは、**全町が一堂に会して行う集団祭事。**

# 「鹿嶋祭り」の呼称と伝わり方

- ◎ 鹿嶋祭り …… 秋田市全域内・男鹿市北浦  
(海上安全・豊漁祈願)
- ◎ かしまさん …… 秋田市内での通称(川尻・新屋)  
(無病息災)
- ◎ 鹿嶋流し …… 檜山登町・大仙市・羽後町  
(疫病流し・船運安全船頭祈願)
- ◎ 鹿嶋送り …… 大雄村・横手市・由利本庄市  
(悪鬼・疫病祓い、虫送り)
- ◎ 鹿嶋さま …… 湯沢市・横手市  
・東北地方山間地 (道祖神)  
(疫病退散祓い)

# 関東以北の鹿島(嶋)神社[518]

全国神社名鑑より

県名	神社数	鹿島神社	(鹿嶋神社)
秋田	1,160	5	(4)
青森	911	10	
山形	1,767	8	(1)
岩手	901	3	
宮城	973	30	(4)
福島	3,114	73	(1)
新潟	5,037	10	3 (鹿島社)
埼玉	2,059	5	1 (併社等)
栃木	1,949	45	2 (併社等)
茨城	2,943	306	(5)21(併社等)
千葉	3,280	23	(1)

# 鹿島さんのルーツ 鹿島神宮 本殿

茨城県鹿嶋市宮中2306-1

## 鹿島神宮 朱塗の桜門



寛永11年(1634年)に水戸初代藩主 徳川頼房公が奉納。頼房公は水戸黄門光圀公の父親。



鹿島神宮：全国に600社ある「鹿島神社」の総本社（国の重要文化財）

日本書記：神武天皇（前660年）大和朝廷時代、蝦夷征伐の前線基地として創建。  
本殿 元和5年（1619年）徳川幕府2代目将軍徳川秀忠公により改造奉納。  
東北最古・最大（奥殿には阿弭流為の首と首桶があると伝わる）

# 鹿島神宮の主祭神

武甕槌大神(たけみかづちのおおかみ)とは

◎ 葦原中国の平定において、荒ぶる神々を制圧した勇ましい国津神(地祇)の一神。



国津神：地震を鎮め、航海安全を司る神。

天津神の剣神、雷神

・武甕槌大神は天照大神の命令を受けて、経津主の神(香取神宮の祭神)と共に、天孫降臨に先立ち、高天原より出雲國(島根県)に下り大国主との國譲りの交渉をしたと語られる神で、神武天皇の大和国(奈良県)入国にも天皇を守護したと伝えられ、神武天皇が即位ののち、神恩感謝のため当地に祀らせたのが神宮本社の起源。以来最強の武門の神として、武将の崇敬を集めた神。

・鎌倉時代には、源頼朝が武門の神として崇敬し、後年地元の佐竹氏が神領を寄進、江戸時代になって徳川家康も社領を寄せ、以来朱印領2千石の大神宮となった。

かしまだいみょうじん

# 鹿島大明神

鹿島大明神とは 鹿島神宮の祭神 武甕槌大神 (たけみかづちのおおかみ)  
香取大明神とは 香取神宮の祭神 経津主大神 (ふつぬしのおおかみ)

鹿島、香取、両神宮の祭神は、雷神、剣神、武神としての神格をもつことから、鎌倉時代では源頼朝をはじめ、諸々の戦国武将の戦勝祈願の神として尊崇を受け、江戸時代以降にも武芸修練者に広く信仰されていく。

大明神：神号あるいは神の尊称。官幣・国幣の社の中でその祭祀が古くかつ由緒ある神を明神（または名神）と称した。

社 格：式内社（大名神）常陸国一宮  
神 宮 = 旧官幣社（宮内庁直轄の奉幣）

現在でも武術(剣・弓)道場には「鹿島大明神」「香取大明神」の二軸の掛け軸が並んで見受けられる。



# 白河 鹿嶋神社 (日本三鹿嶋の一社)



福島県白河市大鹿島8番地

宝亀年間（770～780年）光仁天皇の御代この地に祭られ、弘仁2年（811年）坂上田村麻呂が東夷征伐の際、改めて常陸国より「鹿島大明神」を勧請(かんじょう)した神社で、白河地方の総鎮守にして、武運の神、白河以北を守る神として崇敬した。以来戦国時代の地元の歴代藩主が戦勝祈願の神として参拝した。

# 古四王神社

社伝によると、崇神天皇の時代、四道将軍の一人・大彦命が蝦夷平定の際、北門鎮護のため**武甕槌大神**を勧請奉り、【鰐田浦(あぎたのうら)】の神(秋田の古名)として祀ったのがはじめ。

後に、阿部比羅夫征夷大将軍が北陸道を下向の折り、大彦命を合祀し、越王(古四王)と称したといわれている。

『続日本記』によれば、出羽の柵を当地(高清水)へ移し、北方防備の本拠地とし、秋田城となった。

創建：前658年(齐明天皇4年)、802年(延暦21年)坂上田村麻呂が蝦夷討伐に際し、戦勝祈願をしたと伝えられている田村神社が境内に存在する。



秋田市寺内の古四王神社(国幣小社)



境内摂社 坂上田村麻呂を祀る田村神社

# 久保田城（秋田） 藩主と鹿島さま



秋田藩の佐竹氏は、天皇家の直系の流れを汲む「清和源氏」の一族。

常陸の国 佐竹郷の佐竹氏一門は 清和天皇(858～876)の子孫が臣籍降下により「源」の姓を賜わり常陸の佐竹郷の豪族となったのが始まり。

合戦の歴史上で名高い、後三年の役で活躍した源八幡太郎義家の弟 **新羅三郎義光**を祖先に持つれっきとした源氏の流れを汲む一門。

佐竹義宣公が秋田に国替えとなったのが慶長7年(1602) 秋田氏の居城湊城に入部。手狭なために久保田郡新明山(現千秋公園)に築城の着手。

慶長9年(1604)久保田城完工とともに入城、旭川を境に内町・外町の町割りを計画し城下町づくりに着手、現在の県都 秋田市が誕生した。

# 八幡秋田神社



佐竹義宣・義和・義克  
(秋田初代) (9代) (12代)

八幡神（やはたのかみ、はちまんじん）は、清和源氏の守護神。佐竹氏一族はじめ全国の戦国武将から武運の神「弓矢八幡」として崇敬を集めた武神。

## ＜祭神＞

品陀別命（ほむたわけのみこと）応神天皇  
息長帯姫命（おきながたらしひめ）神功皇后  
比売神（ひめのかみ）主催神の妻や娘・女神

## ＜相殿＞ あいどの

倉稻魂命（うかのみたまのみこと）  
猿田彦命（さるたひこのみこと）  
大宮売命（おおみやのめのみこと）  
武甕槌命（たけみかづちのみこと）

## 正一位 与次郎稻荷神社



## 秋田市旭南2丁目1番13号 青海家にある「鹿嶋神社」



旧四十間堀町にある鹿嶋神社の謂れ：現存の青海家の敷地内にある祠は、往時の神社神殿を取り壊した後、敷地内一角に「鹿嶋堂」として今に留めているものである。青海家は佐竹氏が秋田に移封の折り同道した、水戸国「鹿嶋神社」代々の神官であった。秋田に来てからも青海家の氏神として「鹿嶋神社」を建てて祀ってきた。その後、本神社を経て領内の村々にも「鹿嶋祭り」の風習が徐々に広まったものと推察される。

青海家系

藤原姓淡海公十二世孫重金二男正月海金顯

秘直曾近江守常陸國太田青海鄉代々繼目  
鹿嶋神社守護文祿年病死セリ毎月分テス

○玉秋  
元和元年  
正月病卒

女子一金明一女子

丹波守寛政三年首官運慶安二十有卒

金重丹波守

美歷二年三月官途

典膳金重正月海至殿

女子 元和八年中出岩城高橋男養子吉田殿免狀  
近野右金亦近谷金興ト云フ

安執云守金久

元和四年壬午五月十日御城八幡福高而社朝宮

信濃守金次

寛保二年九月九日官途免狀

安永四年壬午二月六日卒

大文三年三月十日病卒  
喜朝日神女官途

越中守金次

信濃守金盛

後近谷金盛並称名分家宝曆三年吉田殿繼目免狀  
寛政二年八月十日病卒

近谷宗好

宗秋一女子

分家引上青海家嗣ト云

信濃守宗貞

青海金定ト称ス  
安永四年九月官途繼目

筑後守宗秋

後近谷宗則ト称ス

宗貞皇子年二十分家近江丹金信二男宗秋ヲ養子トス安永七年七月官途

宇内宗古

寛政四年五月官途免狀

女子志三宗

後春專ト云

辨司宗信

文化五年八月官途繼目

清馬金春

近谷勝トと稱ス

赤目宗信養子ト云フ安永湯沼芳賀勝意重

子代目

又又美

須榮 若死文者

文政五年二月

青海氏

近谷金春

# 秋田市櫛山登町の鹿嶋神社



## 倉稲魂神の碑



弘化二年（一八四五）

藩政時代 御舟町の穀倉  
荷役で落ちこぼれた粃米  
を惜しみ、供養のために  
建てられた碑（秋田市指  
定有形民俗文化財）

旧御舟町の鹿嶋流しの由来：はっきりとした文献はないが、天保(1833～)の大飢饉で亡くなった多くの人々の霊を供養するために、鹿嶋船流し行つたと伝えられており、後年になってからの神社の創建は、手形の氏神「稲荷」の社殿を貰い受け「鹿嶋神社」の神殿とした。藤原家で奉納したお面がご神体として祀られており、今も鹿嶋流しに用いられている。

# 神社本殿の祭壇

創建：明治10年、明治17年増改築



【御神面】



三吉祥天妙音  
十刹那大白龍王女面



# 東北地方の土着神・道祖神・鹿島神が混交(習合)されている例

天津神の武甕槌神を先導するのは猿田彦神  
で道祖神（男根を象徴する神）でもあり  
「カシマ様」の実体であると云われている。

秋田県湯沢市岩崎地区の鹿嶋様



身長4メートル強の巨大な仁王さん



岩手県和賀郡西和賀町に伝わる  
魔除けの藁人形 鹿島様

## 道祖神の役目

サエノカミ(塞の神)などとも呼ばれ、村の境界域に置かれて外部から侵入する邪霊・悪鬼・疫病神などをさえぎったり、はねかえそうとする民俗神である。役目を終えた後は、人形自体も悪鬼と化すため小正月に火祭り行事として火中に焼べられることが多い。



岩手県西和賀町小繋沢55-138

# 大仙市大曲周辺の鹿島流し



玉川河川敷では、花立小学校の全校児童が縦割りグループに分かれて2体ずつの鹿嶋人形を作り、2艘の鹿島船に乗せ玉川に流して五穀豊穰・家内安全などを祈願する。

丸子川河川敷では、大曲小学校の児童（小3が中心）が武者人形や、願いを込めた幟を鹿島船に乗せて丸子川に流し、五穀豊穰・悪疫退散などを祈願する。



# お船に乗った 上表町の武者人形たち



## 鹿島舟に乗る順番待ちの武者人形

今日日の武者人形：3人の幼児を持つ祖父母が、孫の無病息災を願って3体の人形を製作し、羽織の襟裏に幼児の名前を記して供えたもの。



平成24年新屋の「鹿嶋さん」より

# 日吉神社境内の祭壇



各町内ごとに、おまつりに参加した人たちを清めます。



こうしてお祓い清めることで、  
人々の災いが鹿嶋人形に移ります。





愛宕町の搭載人形は、往時の道祖神・かしま様を連想させられる。



比内町では、町内巡航時6人の子どもたちが大明神を先導する。



お祭りが終わったら小舟に乗せかえて、川に流す準備です。



こうして武者人形に厄を背負わせ、  
小さな船に乗せて雄物川に流します。



## 新屋に伝わる鹿嶋さん

以上により 新屋に伝わる「鹿嶋祭り」は、佐竹氏の秋田入部後久保田城下の町割りに伴い、本町に建立された「鹿嶋神社」がそのルーツであり川尻や茨島さらには、雄物川上流域に伝わって行ったと考えられる。

亀田藩由利郡新屋村は、雄物川の対岸で佐竹藩とは隣合せであったが佐竹氏が将来の海運事業権益を見越し、徳川幕府に知行替えを直訴し元和8年(1622) 由利領百三段 新屋・浜田・石田坂の三村を手に入れた。従って新屋に伝わる「鹿嶋まつり」の風習は、亀田藩由利郡新屋村が秋田藩に編入後に伝わったものではないか？

- 秋田の鹿嶋神社（鹿嶋まつり）に伝承記録が無いのは何故か？明治維新で廃仏毀釈(神仏分離)制が敷かれ、神仏混淆の社殿が一気に仏教に関わる宝物・書状を移転あるいは廃棄された。その時に鹿嶋神関連の伝記も 消滅となった恐れがある。
- 第二次大戦後GHQの指令で財閥解体と神社の国弊を民間に委譲 社団法人として独立、この時点で武神の神は(神風特攻隊を連想) されるとして関連社史をも排斥処分された可能性も考えられる。

## 秋田に伝わる「鹿嶋祭り」の沿革と考察

地元秋田地方には古来より悪霊・疫病退散祈願として、各地で道祖神（藁人形）が祀られており、お祓いの後河原で焼いたり川や海に流す風習があった。

慶長7年（1602）佐竹氏の秋田入部に伴い、常陸太田より領内の神官も同道する事となり、この神官の氏神である「鹿嶋大明神」が祀られる事によって、次第に秋田にも「鹿嶋信仰」が広まり、鹿嶋流しの風習も伝わったのではないかと推察される。

鹿嶋神宮のお膝元常陸太田市では、子供たち主体で藁人形作りの風習があり、顔には武人の相を書き、腹の中に餅や赤飯を詰め村境の川原に集合。集団で人形のたたき合いをし、その後河原で人形を焼く。（侍大将戦勝祈願の名残か）

久保田城下町の川尻・上川口・中川口・新町等では、元禄(1703)・宝永の頃より鹿嶋祭りが行われたと記録にある。

天明3年（1783）、天保4年（1833）の大飢饉で、大勢の町民が飢餓と疫病の犠牲になったことから、悪霊・疫病祓いとして「鹿嶋流し」が各地で行われた。こうしてもともと地元で祀られていた守護神（道祖神・賽の神）と他から伝わった鹿嶋信仰と結びついて多様な鹿嶋祭りの形態が広まっていったものと思われる。

いずれにしても、全21町内が子供の無病息災や家内安全を「鹿嶋人形」に託して祈願する、子供たちが主人公の大掛かりな新屋の伝統行事は、全国的にも珍しい形態のお祭りとして現在に伝えられているのである。

# 鹿島神宮の御船祭

## 航海安全・豊漁祈願祭

およそ1700年前の応神天皇の御代より伝わる、鹿島神宮最大の祭典。

御船祭とは12年に一度行われる水上祭で、鹿島神宮の祭神である「武甕槌大神(たけみかづちのおおかみ)」と、香取神宮の祭神である「経津主大神(ふつぬしのおおかみ)」の2柱の武神が水上で再会するというお祭。鹿島神宮から出御した神輿は、大船津で御座船に乗り、この船を中心として約50隻の船が陸と海を30km巡航し、香取市加藤洲の御斎杭で経津主大神の歓迎を受けたあと、再び鹿島神宮に戻る。



# 常陸太田市に伝わる「大助人形まつり」



大助人形とは、篠竹の刀や弓を持ち、半紙にこわ〜い顔を描いたワラの人形。鹿島信仰に由来し、悪霊が村に入ってこないように睨みを利かせて道路ばたに立てられており、いわば村の守護神的存在。かつては県内の多くの地域で行われていたが、昭和30年以降衰退し現在では那珂市など数カ所で見られる程度とか。



◎ 地域の子供たちの無病息災を願う、とても有為なこの  
おまつりは、新屋の住民として誇るべき行事です。

◎ 今後とも全町民こぞって協力応援し、この神事を大いに  
盛り上げて、後世に伝えていくべきものと考えます。

◎ 「鹿嶋祭保存会」 018-828-3033 入会へのお誘い

おしまい